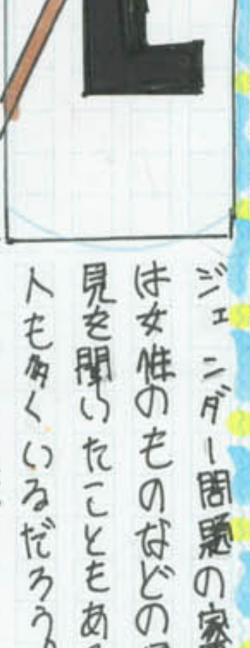
未来に向けて

帯広市立帯広第四中学校
1年2組31番
山口華奈

SDGs

この新聞は、校外学習や、フィールドワークで学んだ今の世界の大変さを書いたものである。他にも、帯広のSDGsの取り組みなどを書いたものでもある。

6月28日の、校外学習で今の大変さを私は思い知らされた。今回は、世界の問題の中で、印象が強かったつを紹介しようと思う。一つ目は、あまり経済が進んでいない国で起きている戦争や紛争の問題だ。この問題が起きることで、安全に生活ができない人が多くいる。2つは、国同士の文化の違いで起きているそうだ。2つ目に紹介しようと思うのは、一つとは違い、経済が進んだ国などで起きている大気汚染だ。この問題が起きることで、ぜんそくなどの病気にかかることもあるそうだ。最後は、日本でも深刻な食品ロス問題。日本では食べ物が毎日全員の人口がお茶わん一杯捨てていると言われているほど、日本でもひどい状況である。しかし、日本のような国がある中、世界では、人口の一人が、ご飯が食べれず、うえている国もあるそうだ。この世界にある多くの問題を、なくすために、自分がやったって何も変わらないと思わず、自分ができることで世界が変わると思い、生活することが大切である。多くの人がすくわれ、環境問題などの問題が解決するのである。



自然公園の歴史

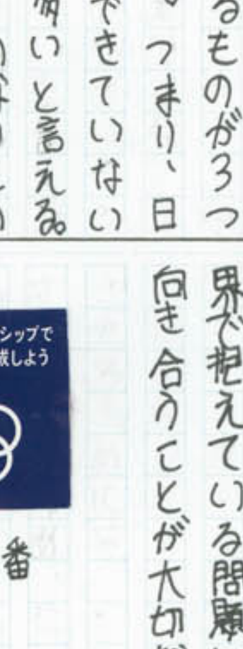
私が住んでいる帯広には、はぐくーむという森がある。その森は、吉村博さんが作った。1896年頃は森林はあったが、1945年頃には森が伐採されることがあり、森林が減っていった。その時に、森林を増やそうとしたのが吉村博さんである。1975年から2004年から55種類23万本の木を植えることが出来た。森は木が植えられて、2005年までやっていた。毎年約、1000人が参加してくれ、間伐や枝払いなどの森づくりの活動を行っている。

4年頃まで、市民植樹祭を行っていた。市民植樹祭では、500人が参加したことにまで増えた。そのお祭りは、1991年入れも必要だ。そのために、市民育樹祭というものを行った。このお祭りは、1991年から2009年頃には上がらない。しかし、緑色になるほど木が増えた。そしてできているものが3つほど大切である。2010年には森林しかない。つまり、日本は達成できていない。ものが、多いと言える。はぐくーむが閉館した。今で達成できていないもの

フィールドワーク

私は7月14日に、ガリンパークから帯広神社に行き、そのあとガリンパークへの帰り道に落ちているゴミを拾う、フィールドワークというものを行った。最初は、ゴミがあるとは思っていなかった。しかし、ガラスなどを険なゴミからマスクや缶などいろんなゴミが落ちていた。そんな、ゴミは人の手で処分しない限りずっと陸や海などにあると、無くならないそうだ。だから、とても環境に悪い。なので、ゴミを無くすためには私達はゴミ拾いなどのボランティアなどに参加することなどが、環境を悪くしない方法である。

ジェンダー問題の家事は女性のものなどの偏見を聞いたこともある人も多くいるだろう。日本でも達成できていない17番は、パートナーシップで目標を達成しようという、SDGsの中でも大切な目標だ。この目標を達成させるためには、国同士の対立をやめ協力し世界で抱えている問題に向き合うことが大切だと私は思う。



SDGs 17番

帯広は

帯広には、多くのお店がある。その中で、SDGsの取り組みを行っているお店がある。その中にあるのが、北潮万丈というお店だ。このお店では、バイオガスの余剰熱を使用したキョウザメの養殖を行ったりしている。他にも、傷ついた魚を捨てず、加工して売っていたりしている。北潮万丈のようなお店が増えることで、食品ロスが減ったりしたりというういろんな問題が解決していくのかもしれない。

編集後記

この世界には、大変な問題があることがわかった。そんな中、帯広でもSDGsの取り組みをしているお店もあった。そのようにみんなで協力していくことで、いつか世界の問題がなくなっていくと私は思う。

十勝毎日新聞